

製品名: サイトケラチン7 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09755**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	KRT7
別名	KRT7; SCL; Keratin; type II cytoskeletal 7; Cytokeratin-7; CK-7; Keratin-7; K7; Sarcolectin; Type-II keratin Kb7
遺伝子 ID	3855.0
SwissProt ID	P08729
免疫原	抗血清はヒトケラチン7由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 420-469

背景

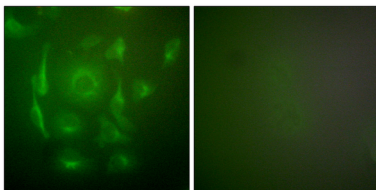
ケラチン7(KRT7) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ケラチン遺伝子ファミリーのメンバーです。II型

サイトケラチンは、単純上皮組織および重層上皮組織の分化中共発現するヘテロタイプのケラチン鎖のペアに配列された塩基性または中性タンパク質で構成されています。このII型サイトケラチンは、内臓の空洞を裏打ちする単純上皮、および腺管と血管で特異的に発現しています。II型サイトケラチンをコードする遺伝子は、染色体12q12-q13の領域に密集しています。選択的スプライシングによって複数の転写バリエーションが生じる可能性がありますが、すべてのバリエーションが完全に説明されているわけではありません。[RefSeq提供、2008年7月]、機能：インターフェロン依存性間期を阻害し、細胞内のDNA合成を刺激します。ヒトパピローマウイルス16型E7 mRNA (HPV16 E7) の翻訳調節に関与しています。誘導：レチノイン酸によってアップレギュレーションされます。質量分析：PubMed:11840567,その他:細胞骨格ケラチンとマイクロフィブリルケラチンには、I (酸性; 40-55 kDa) とII (中性から塩基性; 56-70 kDa) の2種類があります。PTM:Arg-20はジメチル化されており、おそらく非対称ジメチルアルギニンになっています。類似性：中間径フィラメントファミリーに属します。サブユニット:2つのタイプIケラチンと2つのタイプIIケラチンからなるヘテロ四量体です。真核生物翻訳開始因子3 (eIF3) サブユニットEIF3S10およびHPV16 E7と相互作用する。組織特異性：培養表皮細胞、気管支細胞、中皮細胞で発現するが、結腸、子宮頸管、肝臓では発現しない。胃と食道の接合部における腺細胞全体に認められるが、食道には認められない。

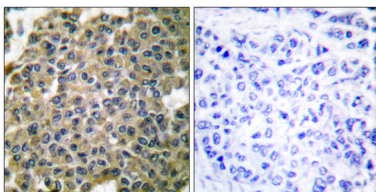
研究分野

シグナル伝達

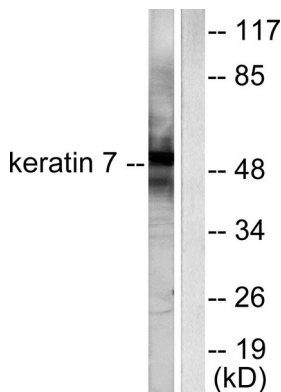
画像データ



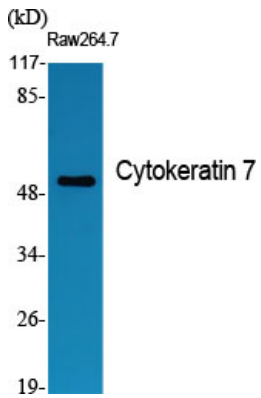
ケラチン7抗体を用いたHepG2細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



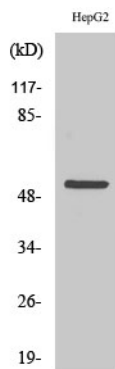
ケラチン7抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ケラチン7抗体を用いたHepG2細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈したサイトケラチン7ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 1000 希釈のサイトケラチン7ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析